

## 霊宝館

霊宝館は、仁和寺における主な博物館です。霊宝館は、二王門から本堂へと続く中央参道のすぐ東側に位置しており、仁和寺がその長い歴史の中で収集した仏像、絵画、写経、書簡などの貴重な品々を保管・展示しています。これらの中でも、9世紀の開山時の阿弥陀三尊像や、11世紀の孔雀明王の仏画などが見どころです。これらは、いずれも国宝に指定されています。

仁和寺が朝廷と密接な関係を持った場所であったことは、1867年までは皇族の一員が勤めていた仁和寺の住職に宛てた、天皇による手書きの文書が数多く残されていることから明らかです。これらの文書からは、特に、日本文化が開花した平安時代（794-1185年）の京都貴族の信仰生活の中で、仁和寺が中心的な役割を果たしていたことがわかります。

この日本古来の蔵建築を彷彿とさせる鉄筋コンクリート製の建物は、建築家の片岡安（1876-1946年）が設計しました。この建物は1927年に完成し、有形文化財に指定されています。霊宝館は、毎年4月1日と10月1日から約50日間、年2回開催される「名宝展」の期間中に一般公開されています。